

薬剤名 〇〇1キロ粒剤
 県名 〇〇県

実施場所: 普及所等の
 名称と、実施市町村を
 記録する。

作物 移植水稻
 実施場所 〇〇普及センター(〇〇市)

区分 一発処理

区分: 技術確認圃の
 申請書の区分に従う。

土質土性 沖積・埴壌土
 減水深 1cm/日
 標高 80 m

標高: 確認している場
 合のみ記載。

品種 コシヒカリ
 作期 普通期
 栽培方法 稚苗機械移植

植代日 平成〇〇年5月15日
 移植日 平成〇〇年5月20日
 移植苗草丈・葉齢 12.4 cm、2.5葉

処理時の作物の状況

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)(/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (30a)	処理 1回目	〇〇1キロ粒剤 1kg	5月20日 (±0)	田植同時 0cm→3cm	2.5L	未発生
	処理 2回目	△△△液剤 1000mL(100L)	7月1日 (+42)	動力噴霧機 0cm	-	オモダカ 20cm
	処理 3回目	□□1キロ粒剤	5月20日 (+0) 7月1日 (+42)	動力散粒機 3cm 動力噴霧機 0cm		20cm

雑草調査後に慣
 行防除で散布した
 除草剤があれば
 ()で記載する。

移植後日数:
 移植日を0とした日数を記
 載する。田植同時処理は
 (±0)として、移植直後処
 理(+0)と区別する。

乾物重、生体重のいずれかを記載する。

移植後の日数を記載する。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))					雑草調査日: 6月30日 (+41)	薬害		評点	
	ノ ビ エ	カヤツ リガサ 類	コナ ギ	アゼ ナ	ホタ ルイ		雑草	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	1.2	0	0	0.1	t	0.1 (13.5)	0.1 (20.2)	無	100%	A
慣行	1.4	0	0.5	(0.1未満はtと記載する。)	0.1	0.1 (20.2)	0.1 (20.2)	0%		

残草した雑草
 の草種名を記
 載する。

総計
 上段: 残草量
 下段: 慣行区比

適用登録外の作物でも、発生が目立つ場合は()で記載する。0%
 総計には含めない。

無処理区での発生雑草(発生程度)

ノビエ、コナギ(多)、
 備考(特記事項等):
 処理2日後に降雨(〇〇mm)があり、若干オーバーフローした。
 田面が高く露出したところでノビエが残草した。

無処理区での発生雑草:
 発生量が多い場合は(多)を記載する。

備考:
 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記載する。
 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記載する。
 農家のコメントがある場合は記載する。

薬剤名
県名

〇〇〇ジ
〇〇県

フォント(書体)は記入部分が
目立つように変えています。
実際は明朝体などを使用し
て下さい。

作物 移植水稻
実施場所 〇〇普及センター(〇〇市)

区分 体系処理(初期)

土質土性
減水深
標高

洪積・砂壤土
1cm/日
—

作期
栽培方法

コシヒカリ
早期期
稚苗機械移植

植代日 平成〇〇年4月17日
移植日 平成〇〇年4月22日
移植苗草丈・葉齢 12 cm、2.1葉

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)(/10a)	処理日 移植後日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況
						雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃 (10a)	処理 1回目	〇〇〇ジャンボ 10個(300g)	4月23日 (+1)	畦畔から投入 5cm	2.2L	未発生
	処理 2回目	△△△フロアブル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始
	処理 3回目					
慣行 (10a)	処理 1回目	〇〇フロアブル 500mL	4月23日 (+1)	畦畔から手振り 5cm	2.2L	未発生
	処理 2回目	△△△フロアブル 500mL	5月21日 (+29)	畦畔から投入 5cm	3.6L	/ビエ 発生始、ホタルイ 発生始
	処理 3回目					

乾物重、生体重のいずれかを記載する。

移植後の日数を記載する。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))		雑草調査日: 6月16日 (+54)				薬害		評点	
	ノビエ	カヤツリガサ類	一年生広葉		多年生雑草		総計 <small>下段()は慣行区比</small>	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	2本	0	ホタルイ 5本				総計 上段: 残草量 下段: 慣行区比 0.3 (60%)	無	100%	A
慣行	5本	0	ホタルイ 4本				0.5 (100%)	無	100%	

残草量が少なく重量の計算が
困難な場合は、本数調査でも
良い(本数調査であることがわ
かるよう単位を記入する)。

総計
上段: 残草量
下段: 慣行区比

無処理区での発生雑草(発生程度):

/ビエ、ホタルイ、アゼナ、コナギ

備考(特記事項等):

確認圃は、前年度に雑草が多く残草した圃場であったが、除草効果は

備考:

評点が「-」の場合、その理由を記入する。

残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記載する。

気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記載する。

薬剤名 〇〇フロアブル
 県名 〇〇県

栽培方法: 湛水直播および乾田
 直播のいずれかを記載する。

作物 直播水稻
 実施場所 〇〇普及所(〇〇町)

区分 直播栽培

土質土性 火山灰・壤土
 減水深 2cm/日
 標高 53m

品種 ヒノヒカリ
 栽培方法 湛水直播栽培
 播種方法 土中播種(カルパー)

植代日 平成〇〇年5月5日
 水管理 播種後に水深3cmまで入水し、その後自然落水した。平成〇〇年5月23日に再入水した。
 播種日 平成〇〇年5月8日

圃場 (面積)	処理 回数	処理内容	播種 日数	処理方法、処理時水深	作物生育程度	処理時の状況	
						雑草発生 名	草丈・葉齢・発生程度
確認圃 (10a)	処理 1回目	■ 1キロ粒剤 1kg	5月8日 (±0)	播種同時 0cm→3cm	出芽前	未発生	水管理: 播種から再入水までの水管理を 記載する。(乾田直播では入水日を記載 する。)
	処理 2回目	〇〇フロアブル 500mL	5月28日 (+20)	畦畔から手振り 5cm	1L	/ビエ 2L	
	処理 3回目						
慣行 (10a)	処理 1回目		5月8日 (±0)	播種同時 0cm→3cm	出芽前	未発生	発生量が多い場合は雑草 名の跡に(多)を記載する。
	処理 2回目		5月28日 (+20)	畦畔から手振り 5cm	1L	/ビエ 2L、ホタルイ 2L(多)	
	処理 3回目						

播種後日数:
 播種日を0とした日数を記
 載する。播種同時処理は
 (±0)として、播種直後処
 理(+0)と区別する。

乾物重、生体重のいずれかを記載する。

播種後の日数を記載する。

圃場	除草効果 (残草量: 生体重 (g/m ²))		雑草調査日: 6月25日 (+48)				薬害		評点	
	ノ ビ エ	カヤツ リガサ 類	一年生広葉		多年生雑草		総計 下段()は慣行区比	症状・程度		収量比 対慣行
確認圃	0		コナ ギ	アゼ ナ	ホタ ルイ	オモ ダカ	13.6 (99%)	なし	100%	A
慣行	0						13.8 (100%)	なし	100%	

無処理区を設置できなかった場合は、「周辺圃場での発生雑草」を記載する。
 (記入例)
 ※ノビエ、※コナギ、※アゼナ、※ホタルイ (※は周辺圃場で発生した雑草)

無処理区での発生雑草(発生程度):
 ノビエ、コナギ、アゼナ、ホタルイ、オモダカ、クサネム、キシウウ

備考(特記事項等):

備考:
 評点が「-」の場合、その理由を記入する。
 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記載する。
 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記載する。